

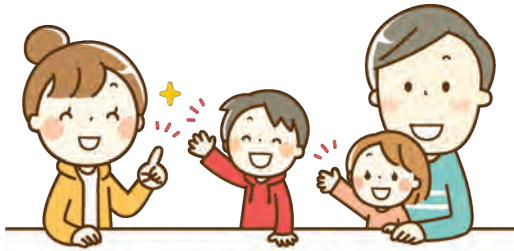
家庭ではどうしたらよいのでしょうか

POINT

家族で子どもが学校のことを話せる関係を築くことが大切です。

そう、
よかったわねえ。
もっと聞かせて。

あのね、ぼく
今日は学校でね・・・。



いじめやつらいことも安心して家族に話せるようにするために、小さい頃から、子どもの学校の話聞く時間をつくりましょう。

相談を受けたら

いじめられている場合

子どもの気持ちに寄り添って聞くようにします。



辛かったんだね。
よく話してくれたねえ。

家族には自分のつらいことを伝えづらいものです。日頃から、どんなことでも子どもが話せる関係をつくりましょう。



周りの子がいじめにあっている場合

自分の子どもが被害者でなくても、家族で話し合っ、一緒に解決する方法を考えましょう。



何かできること
ないかなあ。

放っておいたら
いけないよね。

まずは、いじめに加わらないように子どもと話し合ひましょう。家族でどうしたらいいか考えます。



子どもに変わった様子はありませんか？

POINT

普段から子どもの様子を
しっかり見守りましょう。

子どもが加害者・被害者になったとき、早期に発見できるように、サインを見逃さないようにしましょう。



子どもが発信するサイン

◆いじめられている子どもの変化

- ・口数が少なくなり、元気がなくなる。
- ・食欲がなくなる。
- ・感情が不安定になり、家族や物にやつあたりする。
- ・急に甘えたり、反抗的になったりする。
- ・持ち物がなくなったり、壊れていたりする。
- ・お金をねだったり、持ち出したりしている。
- ・学校から帰った時、衣服が汚れている。
- ・朝、起きにくかったり、学校へ行き渋ったりする。
- ・身体的な症状が現れる。（腹痛、頭痛、微熱、過呼吸等）
- ・友だちと遊ばなくなる。誰も遊びに来なくなる。
- ・友だち関係が今までと変わっている。
- ・学習意欲がなくなる。
- ・急な外出が多くなる。
- ・急に携帯電話を気にする。逆に無関心になる。



◆いじめている子どもの変化

- ・暴力的な言動が増える。
- ・時間にルーズになる。
- ・お小遣いでは買えないものを持っている。
- ・友だちへの対応が命令口調になっている。



こんな様子が見られたら、子どもに声をかけてみましょう。

POINT

子どもの話だけで判断せず、担任や保護者仲間に相談してみましょう。

はい、どうしましたか？

安心して
お話ください。

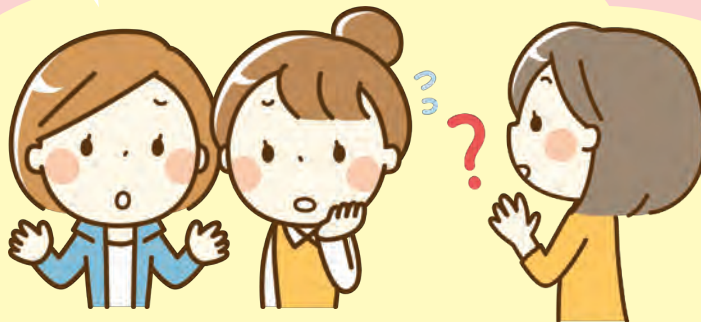
先生、実は
聞いていただきたいことが
あるんです。



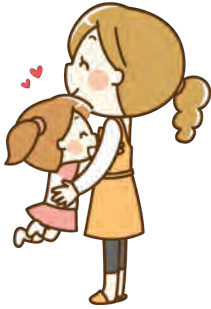
うちの子にも
同じようなことが
あったわ。

うちの子どものこと
なんだけど…。

担任の先生にも相談したら
どうかしら…。



いじめにあっているとき、家族のどんな言動が大切か



「何があってもあなたの味方だよ。」と言って抱きしめた。

「ひとりで苦しまないで。何でも話してね。家族なんだから。」と伝えた。

「これからのことは、あなたと相談し、あなたの考えを大切にすることからね。」と伝えた。

心配しているということを伝えながらも、無理に聞き出そうとせず、温かく見守っていくことが大切です。



いじめていると知ったとき、家族のどんな言動が大切か

「あなたのことが大切だ」ということを前提にして、保護者として、そんなに大切な我が子がいじめをしていることがとても悲しく残念である気持ちを伝えた。

子どもにいじめがいかにかに人の心を傷つけるか話して、やめるように保護者の思いを伝えた。
それから、今までの関係を見つめ直し、できる限り子どもとの時間をとり、スキンシップを心がけている。



みんなで謝ろうと話合っ、保護者も一緒に被害者に謝った。
その後、子どもの気持ちを受け止められるよう、家族で対話の時間を大切にしている。

どんな場合でも子どもの気持ちを受け止められるように、対話の時間を大切にすることです。子どもと話し合うことで、解決に向っていきます。



いじめにあっているとき、逆に辛くなる家族の言動

共感したつもりが、追いつめてしまう場合



何てひどいことを…
そんな子にはこうすれば
いいんじゃない？



なんだか自分が
しかられているみたい。

保護者が前に出すぎて余計に混乱する場合



私が文句を言ってやるから。



問題が余計に
ややこしくなるから
やめてほしいんだけど。

励ますつもりが、責めてしまっている場合



負けずに言い返して
やりなさい。



言えないからなやんで
いるんだけどなあ。
自分は弱いんだなあ。

保護者が神経質になってしまう場合



今日はどうだった？
あの子にいやなことを
されなかった？



いつもいつも聞かないで
ほしいなあ。本当は
プレッシャーになって、
苦しいよ。

POINT

子どもの思いと意志を尊重しましょう。
子どもの気持ちに寄り添って考えることが大切です。